

第44回



KONOIKE VINATRANS LOGISTICS

鴻池ビナトランスロジスティクス(KONOIKE VINATRANS LOGISTICS)は、大阪府中央区に本社を置く鴻池運輸とベトナムの大手物流会社ビナトランスの合弁会社として1996年に設立されました。日系物流会社として初めてベトナムに進出し、また、ベトナムで初めて大型冷凍冷蔵倉庫を設立しており、現在までに様々な物流サービスをベトナム全土で展開しています。今回はそんな鴻池ビナトランスロジスティクスの、林社長にお話を伺ってきました。

●事業内容

ロジスティクスサービス  
生産設備の据付工事  
アウトソーシング

●KONOIKE VINATRANS LOGISTICS CO.,LTD.  
18A LUU TRONG LU ST.,T  
AN THUAN DONG WARD  
DIST 7 HO CHI MINH CITY  
VIETNAM

●日本本社  
大阪府中央区備後町2-6-8



一進出の経緯についてお聞かせください。

弊社の親会社である鴻池運輸は、日系物流企業がまだ進出していなかったベトナムにビジネスチャンスがあると考え、1993年の7月にベトナム最大の商業都市であるホーチミンに駐在事務所を開設しました。ですから今年には鴻池運輸がベトナムに進出してからちょうど20周年という節目の年になります。

駐在事務所設立から3年後、1996年の12月にビナトランス(VINATRANS)との合弁会社である鴻池ビナトランスロジスティクスを、鴻池運輸60%、ビナトランス40%の出資比率で、パートナーであるビナトランスが所有していたタントアン工業団地近郊

の土地に設立いたしました。

現在は、ハノイにも支店を構え、営業所をVSIP、ミーフック、アマタ、ハイフォンに置いており、ピンズン省VSIPとハイズン省には倉庫も保有しております。

1996年当時のベトナムには日系の物流業者がまだ進出しておらず、弊社が法人ライセンスを取得するにあたっては、合弁であることとベトナムに未だ無い、新しい物流技術をベトナムで展開することがベトナム政府から進出の条件として提案されました。そこで弊社では、当時ベトナムにはまだなかった大型の冷凍・冷蔵倉庫設備をベトナムに導入することをベトナム政府に提案しライセンスの許可を頂く事ができました。

進出当初、弊社は日系の物流会社として初めてベトナムに進出したので、まずは鴻池という名前よりも日系企業であることをアピールしようと考え、「JAPAN」と「VIETNAM」の頭文字をとったJAPAN VIETNAM TRANSPORTATION CO.,LTD(略称:ジャビトランス社)という名前でスタートしました。その後、お陰様で、多くの企業様から弊社の活動をご理解いただけるようになりましたので、2005年に改めまして現在の社名を鴻池ビナトランスロジスティクスに改名しております。

一業務内容についてお聞かせください。

弊社のメイン業務はロジスティクスサービス、物流です。設立当初は、冷凍・冷蔵倉庫を活用しメコンデルタ地域で採れたシーフードを日本へ輸出する業務がメインの業務でした。現在では乳製品やシーフード以外にも多種多様な商品を、冷凍・冷蔵の技術を使ってスーパーマーケット等に配送しております。国内の輸送としては他に、メコンデルタ地域で採れたシーフードなどをホーチミンからハノイへ、週2便、輸送しております。また、ダラットで栽培された輸出用の生花なども多く運んでおります。国際輸送については、お客様に代わって貨物の輸送や通関業務を行ういわゆるフォワーディング業務を行っており、資材や原料、完成品だけでなく、機械設備なども扱っております。

業務のメインはロジスティクスサービスですが、生産設備の据付工事作業、弊社ではエンジニアリングと呼んでいるのですが、これも弊社にとって重要な業務の一つになっています。例えば日本の工場設備をそのままベトナムの工場で使用する場合、日本での設備の解体、撤去から搬入、輸送、ベトナム工場への搬入、据付までを一貫して、弊社で行わせていただいております。





ます。当然機械を扱う技術面での専門性が求められますが、一貫したサービスを行うためには、関税の知識など輸出入の手続きについての専門性も重要になってきますので、弊社は物流で培った経験を生かしてご対応させていただいております。

弊社の親会社であります鴻池運輸の日本での中核となってきた業務は、実は製造業の請負業務、いわゆるアウトソーシングです。一般物流も行っているのですが、工場ラインのメンテナンスやオペレーションなどを多く請け負わせていただいております。最近では病院内の医療機器等の物流の請負などもやらせていただいております。このような日本で実績を築いてきた業務形態をベトナムでも生かしていきたいと考えており、ベトナムでは、物流業者として活動してきましたのでその技術、例えば梱包の技術などを生かして、お客様にアウトソーシングを提案していきたいと思っています。

また、新たなサービスとして、倉庫の管理システムといった情報システムの提供も考えております。

### 一ベトナムで仕事をしていて困ったことなどはありますか？

弊社は運送会社として税関などベトナム政府関係機関との交渉を度々しなければならず、それはパートナー会社にやってもらいます。ですので、合弁会社だからなのはもちろん、パートナー会社あつての鴻池ビナトランスと言えます。

しかし、政府に対する考え方、部下に対する考え方など、様々な場面で考え方や常識の違いが双方に生じ、いつも悩まされますね。ちょっとした相違でも話し合いをしながら、たとえお互いの考え方を完全に理解し合うことは無理だったとしても、お互いの立場を認識し合っていくように心がけています。



ただ、ベトナムの状況に適ったベトナム人の常識もあります。日本人は初めて依頼する外注業者に対しても信頼関係を前提にしていますが、ベトナム人は外注業者に頼むことにとっても慎重になります。最初は考え方の違いを感じましたが、外注業者とのトラブル、時には盗難なども発生することが少なくありませんので、ベトナムでは外注業者選びに慎重にならざるを得ません。

### 一ベトナムで仕事をしていて良かったことは何ですか？

ホーチミンとハノイそれぞれで社員旅行や忘年会を行っています。そういったイベント事があると、皆、仕事で抱える悩みなどを忘れ、思い切り楽しんでくれるのですが、楽しむときは楽しむという姿勢を見ていると、ベトナムで仕事をしていて良かったと感じます。忘年会では、「鴻池ビナトランス&エンターテイメント」という会社を作ろうかと思うくらい、劇やギターの演奏などの出し物に力を入れていますよ。社員旅行は家族も参加し、前日から皆楽しみにしており、バスがずらりと並ぶとまるで小学校の修学旅行のようです。今年のホーチミンの社員旅行は、昨年に続けてムイネーに行く予定です。

### 一ベトナム人社員の評価や離職率はいかがですか？

トラック運転手なども含め、ホーチミンに約200名、ハノイに約70名、全体で約270名の社員がおり、そのうち日本人が9名です。男女比率は女性40%、男性は60%です。

まず離職率ですが、慎重に雇用を行うためなのか、社員が辞めることは幸いにもほとんどありません。ボーナスの回数に工夫をしたり、福利厚生を充実させたり、そしてやはり忘年会など社員の楽しみを大事に

することで、社員同士のコミュニケーションがとれ、定着率を高めているのではないのでしょうか。

ベトナム人の評価ですが、個々の能力は高いと思うのですが、組織として生かすのが苦手のように感じます。

### 一今後の事業展開についてお聞かせください。

まず、現在の冷凍冷蔵倉庫は進出時から使用しているものなので、積極的な設備投資を計画しています。

そして、日本の鴻池運輸がやってきた請負業務、アウトソーシングにも力を入れ、様々な場面でチャンスを掴んでいきたいと思っています。また、プノンペンに駐在員事務所を2012年に開設しましたが、常に駐在員が行き来しながら、ASEANにおける物流の可能性を考えております。ホーチミンはその立地からASEANにおいて鍵になる存在だと思えます。

今年は鴻池運輸がベトナムに進出して20周年になりますが、20周年記念であると同時にKONOIKEグループの社会貢献活動の一環として、ホーチミンで中学生のサッカー大会コウノイケ・カップ2013を行い、優勝チームの子どもたちを11月中旬に日本に無料で招待し、日本の中学生との交流試合も行われました。子どもたちにも「鴻池」という名前を知ってもらいたいですね。

最後に、弊社は生産設備の据付工事も得意としており、今後アウトソーシングの分野も広く展開をしていきたいと思っておりますので、物流に限らずどうぞ弊社でお役に立てることがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

一ありがとうございました。

